

令和3年度地域と市長のまちづくり懇談会 玉川校区

開催回次	令和3年度第5回	開催月日	10月10日	開催校区	玉川校区	開催場所	玉川校区市民館
議題				市の回答			
<p>1 東三河環状線の早期完成について</p> <p>東三河環状線は、現在、玉川小南交差点までの共用となっており、未着工部分の工事はあまり進んでいないように思います。このため、和田辻交差点付近の渋滞発生、町内生活道路への通過車両の走行など、地域住民生活への影響や通学児童への危険が増大しています。</p> <p>現在の説明では、玉川小学校西付近まで着工し、次に姫街道までとしており、豊川市内と接続する時期ははっきりしないようです。これらの全線について、早期に着工・共用することにより、玉川地域の交通面での安心・安全の向上を図ってください。</p> <p>早期の工事着工と、今後の工事予定についてお聞かせください。</p>				<p>道路建設課</p> <p>東三河環状線は本市東部地域と豊川 IC を結ぶ幹線道路であり、本市にとって経済面や防災面で非常に重要な道路であります。</p> <p>現在、豊橋市側の石巻本町から豊川市側の当古町までの 2.4kmの区間(石巻本町・当古工区)が未供用であるため、和田辻交差点付近で慢性的に渋滞が発生していることは本市においても承知しており、事業主体である愛知県に対して事業進捗を図るよう要望を行っております。その中でもまずは、姫街道(国道 362 号)までの区間を早期開通することで、和田辻交差点付近の渋滞解消が期待されることから、この区間の早期開通について、特に重ねてお願いをしているところです。</p> <p>現在、愛知県が事業中の石巻本町・当古工区については、玉川校区内で用地買収を行っており、工事については、道路用地が一定程度確保された箇所から、遺跡等の調査を経た区間より順次、着手していくものと聞いております。</p> <p>また、今年度以降、下条校区内や豊川市内での用地買収着手に向けた準備も進めると同時に、道路や豊川を渡る橋梁の設計も進めていくと聞いております。</p> <p>本市におきましても、東三河環状線は最優先で整備を進めていくべき道路でありますので、早期完成に向け愛知県に働きかけを行ってまいります。</p>			

開催回次	令和3年度第5回	開催月日	10月10日	開催校区	玉川校区	開催場所	玉川校区市民館
議題				市の回答			
<p>2 校区の地域資源の有効活用について</p> <p>玉川校区は、次郎柿などの果樹や、農産物の産地、古墳群、姫街道など、自然や歴史の豊かな地域です。市が掲げる東三河地域連携の北への玄関口として、この地域の活性化を図ることは、市が優先的に取り組むべき課題であると考えます。</p> <p>地域を活性化するために、地域の特性や資源を有効に活用する施策を検討していただきますようお願いいたします。</p> <p>(1) 農産物を販売する「豊橋北部道の駅」や「産地直売所」などの建設を検討してください。</p> <p>(2) 古墳群の整備・活用の計画について教えてください。</p>				<p>農業企画課</p> <p>(1) 農産物を販売する「豊橋北部道の駅」や「産地直売所」などの建設を検討してください。</p> <p>東七根町に開駅した「道の駅とよはし」では、併設されたJA豊橋が経営する食彩村に市内外から多くの方が訪れ盛況です。そうしたことから農産物を出荷する農家をはじめ地域の活性化を図るうえで、農産物直売所は重要な施設として市も認識しているところです。</p> <p>食彩村は、JA豊橋が組合員である出荷者（地元農家）と積極的に連携することで、近隣の道の駅である、湖西市の「潮見坂」、田原市の「めっくんハウス」、新城市の「もっくる新城」などと比べても、品数や価格、鮮度といった面で大きく優れ、これが誘客に大いに寄与しています。</p> <p>そういった意味で、北部地区に道の駅・農産物直売所を建設するにしても、主体となるJA豊橋の協力が前提となりますので、JA豊橋さんと一体となって検討を進めていく必要があると考えています。</p>			

美術博物館

(2) 古墳群の整備・活用の計画について教えてください。

玉川校区には、数多くの古墳・古墳群があります。中でも馬越長火塚古墳群は、出土品が平成 24 年に国の重要文化財に、古墳群自体が平成 28 年に国の史跡に指定され、古墳時代後期の東海地方を代表する古墳群であり、全国的に見ても大変貴重な文化財です。

そこで、本市ではこの古墳群を適切に保存しつつ、市民の共有財産として長く後世に継承するため、平成 29 年度に「史跡馬越長火塚古墳群保存活用計画」を策定しました。

計画では、保存管理の基本方針、活用の方法、整備の方法などを提示しています。

まず、保存管理の基本方針では、土地の管理方法を定め、保存活用のための土地の買い上げを進めることとしています。

次に活用の方法として、地域の歴史文化について研究を進めながら、ガイダンス施設の設置や、イベントや学校教育との連携など、各種の企画を展開します。

そして整備の方法として、横穴式石室は現在と同じように公開を前提にして、保存と展示公開を目的とする遺構の整備を進め、進入路の拡幅や駐車場・トイレなど便益施設の設置、ウォーキングコースの設定による周辺の古墳群を含めた利活用、などを示しています。

市の財政事情を鑑みながらではありますが、国庫補助金など財源を積極的に獲得しながら、「史跡馬越長火塚古墳群保存活用計画」の実施に向けて整備基本計画を策定し、さらに実施設計へと歩を進めてまいりたいと考えています。

開催回次	令和3年度第5回	開催月日	10月10日	開催校区	玉川校区	開催場所	玉川校区市民館
議題				市の回答			
<p>3 防災リーダー講習について</p> <p>防災リーダーは、地域防災の中心的な役割を担う人的資材です。</p> <p>防災リーダーの資格を得るための講習会が、新型コロナにより、昨年度は中止となり、今年度も受講者募集終了後に中止の連絡がありました。</p> <p>少子高齢化が進み、東南海地震対応も、豊橋市の大きな課題となっている中、防災リーダーの人員確保は重要です。講習会場の分散など、講習の実施方法を工夫すれば、今年度の実施は可能ではないでしょうか。</p> <p>何とか防災リーダーを増やせるよう再度検討をお願い致します。</p>				<p>防災危機管理課</p> <p>本年度の防災リーダー養成講座は新型コロナウイルス感染拡大防止のため残念ながら2年連続で中止いたしました。</p> <p>災害に対する知識が豊富であり、防災活動の技術を習得した自主防災組織の実践的なリーダーとなる防災リーダーは、災害発生時だけではなく、地域における防災・減災活動の中心を担ってもらうよう期待しております。</p> <p>次年度の防災リーダー養成講座につきましては、ウイズコロナ、アフターコロナを見据え、実施方法を工夫し取り組むとともに、受講希望者が多い場合でも、実施に向け柔軟な対応をとりたいと考えております。</p> <p>防災リーダー養成講座への参加やフォローアップ講座への協力、そして災害が発生した際には、地域の防災リーダーが力を発揮していただきますよう、引き続き、本事業に対する玉川校区からの応援をよろしくお願いいたします。</p>			